

6月7日（日）ネットライブ礼拝

原稿 能城一郎

タイトル：赦しはあなたのもとに

【新共同訳】

詩[130]

130:1 【都に上る歌。】深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。

130:2 主よ、この声を聞き取ってください。嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。

130:3 主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら

主よ、誰が耐ええましょう。

130:4 しかし、赦しはあなたのもとにあり

人はあなたを畏れ敬うのです。

詩編には、見出し語を付けないのが慣わしです。ですが、

1節の「深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。」は、詩篇130篇の作者の心の悩みの深さを良く表しています。2節の「嘆き祈る」は、苦悩の切実たる思いを物語っています。この悩み苦しみの根本は、何でしょうか。不自由への葛藤、見えない者に対する恐怖、あるいは、圧迫への怒りででしょうか。その答えは、3節にある、「罪責感」です。「主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら 主よ、誰が耐ええましょう。」「主よ、主よ、」と、2回も叫んでいます。

この主に対する「罪責感」に敏感に反応するのは、ここにいる、または、ネットで礼拝を守っているクリスチャンではないでしょうか。「罪責感」からの完全な解放されるには、メッセージのタイトルとした、4節の「赦し」が必要です。

4節を読みます。「赦しはあなたのもとにあり、人はあなたを畏れ敬うのです。」

【新共同訳】ルカ 7:47 だから、言うておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさと分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。」

クリスチャンとは、「多くの罪を赦された」体験者と言い換えることが出来ると思います。イエス・キリストの十字架の意味を知り、心の底から悔い改めるなら、主の赦しの奥深さを全身全霊で体験

します。そして、この詩篇の作者と同じ、「人はあなたを畏れ敬うのです」という心境になるのではないのでしょうか。赦しの深い体験は、主を畏れ敬う気持ちに直結しています。

有名な、「七度を七十倍まで」(マタイ 18:22) との、イエスキリストのことばを思い出してください。

この箇所は、19節から読んでゆくと、深い読みができます。

【新改訳 2017】 マタイ

18:19 まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。

18:20 二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」

ここまでは、深遠な話です。その直後に、ペテロの正義感に燃えた発言があります。

18:21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」

18:22 イエスは言われた。「わたしは七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。

そして、イエス様は、有名な莫大な「一万タラント」(時給1000円で計算すると、4800億円)の借金帳消しの譬えの話になります。4800億円を帳消しにしてもらった人は、自分に、「80万円」の借金があった人を赦さなかったのです。

18:23 ですから、天の御国は、王である一人の人にたとえることができます。その人は自分の家来たちと清算をしたいと思った。

18:24 清算が始まると、まず一万タラントの負債のある者が、王のところに連れて来られた。

詩編130篇4節、「赦しはあなたのもとにあり 人はあなたを畏れ敬うのです。」から、お話をしてきました。ここで皆さんと短く、応答の祈りの時を持ちたいと思います。窓を閉める係の方よろしく申し上げます。

祈り